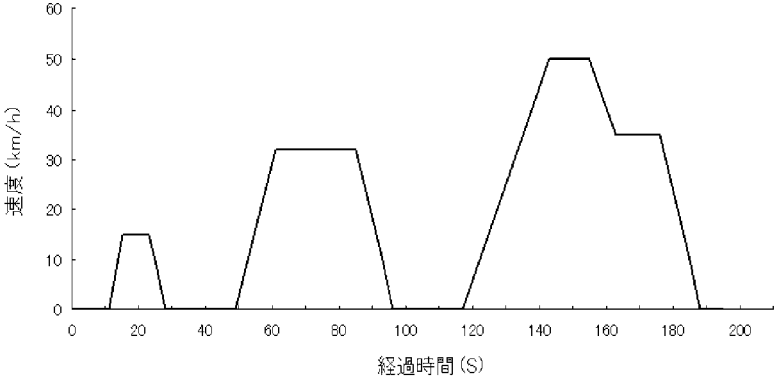
| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 定速 | 50 | 12 | 155 | Top | Top | 5th | — |
| 12 | 減速 | 50—35 | 8 | 163 | Top | Top | 5th | 0.52 |
| 13 | 定速 | 35 | 13 | 176 | Top | Top | 5th | — |
| 14 | 減速 | 35—10 | 9 | 185 | Top | (35—25) Top (25—10) 3rd | 4th | 0.77 |
| | | 10—0 | 3 | 188 | — | — | — | 0.93 |
| 15 | アイドリング | | 7 | 195 | — | — | — | — |

㈱　標準変速位置欄のかっこ内の数字は、それぞれの変速位置に対応する速度を示す。

（参考図）二輪車モード




8.2.　CO等の排出量の測定

CO等の排出量は、8.1.1.の運転方法のうち、第１サイクルから第６サイクルまでを運転する間における排出量を次の方法により測定する。

8.2.1.　試験原付自転車の排気管から排出される排出ガスの全量をＣＶＳ装置に導入し、排出ガス分析に必要な量（100ℓ程度）をバッグに採取する。ＣＶＳ装置のバッグへの排出ガスの採取は、第１サイクルの原動機を始動したときから開始し、第６サイクルの終点に終了すること。

8.2.2.　採取した排出ガスは、別紙２の左欄に掲げる排出ガス成分について、同表右欄に掲げる分析計により分析する。排出量は8.3.に規定する計算方法により算出すること。

8.3.　排出ガス成分排出量計算方法

8.3.1.　希釈率

$$DF=\frac{13.4}{CO_2e+(HCe+COe)\times10^{-4}}$$

DF　：希釈率

$CO_2e$　：希釈排出ガス中の$CO_2$濃度　（%）

HCe　：希釈排出ガス中のＨＣ濃度　（ppmC）

COe　：希釈排出ガス中のＣＯ濃度　（ppm）

8.3.2.　希釈排出ガス量

標準状態における１㎞走行当たりの希釈排出ガス量は、次の8.3.2.1.又は8.3.2.2.の方法により算出する。

8.3.2.1.　正置換型ポンプ（ＰＤＰ）式ＣＶＳ装置による場合

$$Vmix=K_1\times Ve\times N\times\frac{P_p}{T_p}\times\frac{1}{D}$$

$$K_1=\frac{293K}{101.3kPa}=2.8924$$

Vmix　：標準状態における１㎞走行当たりの希釈排出ガス量　（ℓ／㎞）

Ve　：正置換型ポンプ１回転当たりに排出される希釈排出ガスの全量　（ℓ／回転）

$K_1$　：標準状態への補正係数

N　：希釈排出ガスをバッグに採取している間の正置換型ポンプの積算回転数

$P_p$　：正置換型ポンプの入口における希釈排出ガスの絶対圧（大気圧から正置換型ポンプに入る混合気の圧力降下を減じて求める。）　（kPa）

$T_p$　：正置換型ポンプの入口における希釈排出ガスの平均絶対温度　（K）

D　：希釈排出ガスをバッグに採取している間の実走行距離　（㎞）

8.3.2.2.　臨界流ベンチュリー（ＣＦＶ）式ＣＶＳ装置による場合

8.3.2.2.1.　ベンチュリー校正係数は、次式により求める。

$$K_2=K_1\times Q_C\times\frac{P_C}{T_C}\times\frac{\sqrt{T_O}}{P_O}$$

$K_2$　：ベンチュリー校正係数

$K_1$　：8.3.2.1.で求めた補正係数

Qc　：実測ガス流量　（ℓ／ｓ）

Pc　：実測大気圧　（kPa）

Tc　：実測大気絶対温度　（K）

To　：ベンチュリー入口の絶対温度　（K）

Po　：ベンチュリー入口の絶対圧　（kPa）

8.3.2.2.2.　希釈排出ガス量は、次式により求める。

$$Vmix=K_2\int_0^{1170}\frac{Pv(t)}{\sqrt{Tv(t)}}dt\times\frac{1}{D}$$

Vmix　：標準状態における１㎞走行当たりの希釈排出ガス量　（ℓ／㎞）

$K_2$　：8.3.2.2.1.で求めたベンチュリー校正係数

Pv（ｔ）　：ベンチュリー入口における希釈排出ガスの絶対圧　（kPa）

Tv（ｔ）　：ベンチュリー入口における希釈排出ガスの絶対温度　（K）

ｔ　：時間　（ｓ）

D　：希釈排出ガスをバッグに採取している間の実走行距離　（㎞）